

令和元年度 健幸都市くさつの実現に向けた 提案書



令和元年9月19日

草津市健幸都市づくり推進チーム



「健幸都市づくり推進チーム」は、健幸都市づくりを「市の総合政策」として推進するため、将来を見据えた健幸都市づくりに係る施策の企画・立案を行うとともに、全庁的に職員への意識共有を図ることを目的に、部局横断的に設置されたチーム。活動2年目である今年度は、健幸都市基本計画の各基本方針の課題・方向性に沿って、(1)「**まちの健幸づくり**」(2)「**ひとの健幸づくり**」(3)「**しごとの健幸づくり**」のそれぞれについて、来年度以降に実施すべき取組について議論を重ね、その結果を「**令和元年度健幸都市くさつの実現に向けた提案書**」としてまとめた。提案の概要は以下のとおり。

(1) まちの健幸づくり	(2) ひとの健幸づくり	(3) しごとの健幸づくり
<p>① 楽しく歩ける路面標示の設置 今年度の立命館大学との連携による検討を踏まえ、草津駅周辺等に目的地までの距離や消費カロリー等を示した路面標示を設置。</p> <p>② くさつ健幸ステーションの充実・拡大</p> <p>(1) 市役所のステーションのさらなる充実 (2) 図書館への新たな整備 (3) (仮称)草津市立プールへの整備に向けた準備</p>	<p>① 認知症と共生できる社会の実現に向けた検討 認知症を受容し共生できる社会の実現と認知症の方の活躍の場の創出を目指し、「注文をまちがえる料理店」と同趣旨の事業を実施。関係者との調整を行う等実施に向けて検討を進める。</p> <p>② 市役所における健幸づくりのための環境整備</p> <p>(1) 市役所各階の通路に身長別の歩幅を表示。 (2) 市役所8階の軽運動室に健康・体力測定器具等を設置。</p>	<p>○ 草津版ヘルスツーリズムの職員互助会事業での活用</p> <p>ヘルスツーリズムのモニターツアーの一部を、職員互助会の福利厚生事業として実施。参加職員によるツアー内容の改善・充実と、職員交流・市職員の健幸づくりや健幸意識の向上を同時に図る。</p> 

健幸都市基本計画と令和元年度提案内容との関係



健幸都市基本計画(計画上の課題・方向性)

◎基本方針1「まちの健幸づくり」

- 基本施策1 出かけたくなるまちづくり:(1)歩いて暮らせるまちづくり
【課題】自動車の過度な利用を減らし、健康づくりにつながる徒歩や公共交通による移動を増やす。
【方向性】一人ひとりの移動が、自動車から徒歩等を含む公共交通の利用へと転換していくように促していきます。

◎基本方針1「まちの健幸づくり」

- 基本施策2 交流機会や健康拠点の充実:(1)交流機会の充実
【課題】様々な施設を活用し、交流拠点を増やす。
【方向性】出かける機会や交流機会の増加を図るため、(中略)様々なイベントの開催等を行うとともに、優れた景観を探すまちあるき(中略)の活用も引き続き進めます。

◎基本方針2「ひとの健幸づくり」

- 基本施策1 地域の主体的な健康づくりの推進:(2)支え合いのコミュニティづくり
【課題】誰もが住み慣れたまちで安心して暮らすことができるよう、支え合いのコミュニティづくりの取組を進めていく。
【方向性】誰もが住み慣れた地域や家庭で自立した生活を送ることができる「地域包括ケアシステム」の構築を目指します。

◎基本方針2「ひとの健幸づくり」

- 基本施策2 個人の健康づくりの推進:(2)ライフステージに応じた健康づくり
【課題】企業・団体の健幸宣言の取組も契機として、働く世代の健康づくりの取組を更に強化する。
【方向性】働く世代の健康づくりについては、(中略)企業・団体版健幸宣言の実施やそれに基づく取組の推進を図る(中略)など、多方面からの健康づくりを支援します。

◎基本方針3「しごとの健幸づくり」

- 基本施策1 地域産業と連携した健康産業の活性化:(1)ヘルスツーリズムを含むヘルスケアビジネスの育成支援
【課題】ヘルスケアビジネスを創出するため、まず市の課題やニーズを洗い出し、それらの解決につながるサービスを検討する。
【方向性】草津市の様々な観光資源や歴史遺産等を活かし、旅行という非日常の中で健康づくりにも資するツーリズムの開発を進め、訪れる人も健康になれるまちを目指します。

提案内容

楽しく歩ける
路面標示の設置

くさつ健幸
ステーション
の充実・拡大

認知症と共生で
きる社会の実現
に向けた検討

市役所における
健幸づくりのため
の環境整備

草津版ヘルス
ツーリズムの
職員互助会
事業での活用

「まちの健幸づくり」に関する提案



提案①: 楽しく歩ける路面標示の設置

- まちなかを楽しく歩けるよう、草津駅周辺等に主要施設等の目的地までの距離や消費カロリー等を示す路面標示を設置。前年度の健幸都市づくり推進チームの提案書を踏まえ、今年度、立命館大学の研究室が、UDCBK社会実験準備事業において路面標示のデザインや設置場所の検討を行っていることから、その検討結果を踏まえ路面標示の設置を行う。



↑ 岐阜市の例(路面標示)

提案②: くさつ健幸ステーションの充実・拡大

- 自らの健康状態や健幸情報について知りつつ、交流を図りながら健幸づくりを進めていくことができる拠点(くさつ健幸ステーション)の整備を以下のとおり一層進める。
 - (1) 今年度に展開する市役所(1階サロン)のくさつ健幸ステーションは、利用する市民が非常に多く、健幸都市づくりの発信拠点の核となりうる場所であるため、以下の観点から更なる機能の充実を図る。
 - 子ども連れも楽しく過ごせる場づくり(気軽に楽しく飲食できるよう、掃除しやすく明るい色調の床材への張替等)
 - 調理スペースを活用したカフェや飲食イベントの実施
 - その他健幸関連イベントの開催(移動しやすい机やイス、モニターの設置)
 - (2) 滋賀県の「平成30年度平均寿命・健康寿命に関連する要因分析」で、図書館の貸出冊数(学習率・読書率)と健康寿命の相関関係が示されており、市内の図書館も市民の利用が多いことから、読書や健幸づくりの重要性を意識できるよう図書館にくさつ健幸ステーションを整備(健康測定器具の設置、健幸情報の提供、健康関連書籍コーナーの設置等)。
 - (3) 2024年の国スポ・障スポの競技会場として整備が予定されている(仮称)草津市立プールについては、整備基本計画において「スポーツ健康づくりの推進」が基本方針の1つとされていることから、本プールにもその趣旨に沿ったくさつ健幸ステーションを整備するべく必要な準備を進める。



↑ 整備予定の市役所1階サロン



↑ 大和市の例

(図書館の健康度見える化コーナー³)

「ひとの健幸づくり」に関する提案



提案①: 認知症と共生できる社会の実現に向けた検討

- 今年示された政府の認知症施策推進大綱では「認知症になっても希望をもって日常生活を過ごせる社会」の実現が謳われ、また全国では、認知症を理解し受容する社会体制を構築するきっかけとして、認知症の人が働く料理店等を実施する動きが見られる。
(例:「注文をまちがえる料理店」。東京・京都・北海道・静岡等で開催。)
- 「認知症があっても安心して生活できるまちの実現」を目指し、認知症施策に係る条例を検討している本市においても、「注文をまちがえる料理店」と同趣旨の事業を実施し、認知症を受容し共生できる社会の実現と認知症の方の活躍の場の創出を図る。実施には料理店や介護事業者等の自発性や協力が必要不可欠であるため、まずは関係者との調整を行う等実施に向けて検討。



提案②: 市役所における健幸づくりのための環境整備

- 草津市役所が健幸都市づくりを全市的な取組として進め、自らも事業所として健幸宣言を行っていることを踏まえれば、市職員や来庁者の健幸づくりや健幸への意識向上を推進することも重要(行政サービスの向上や各々の業務への健幸視点の導入にも寄与)であるため、以下の取組を実施。
 - (1) 適切な歩幅で歩くことは、よりその運動効果を高めることができることから、**市役所の各階の通路に身長別の歩幅を表示**し、日常的に歩幅を意識して歩くことができる仕組みを作る。職員はもちろん、市役所を訪れた市民や事業者にも健幸づくりの意識を啓発していく。
 - (2) 職員の利用が多い**市役所8階の軽運動室に健康・体力測定器具を設置**し、自身の体力を「見える化」できるようにする等、健康増進・体力向上への意欲を高めるとともに、楽しく取り組める環境づくりを進める。

↓身長別歩幅標示のイメージ



↑武雄市役所の例(廊下に歩幅標示)



←市役所8階の軽運動室

「しごとの健幸づくり」に関する提案



提案：草津版ヘルスツーリズムの職員互助会事業での活用

- 現在本市では、草津市を訪れる人も健幸になれる「健康都市」の実現に向け、草津版ヘルスツーリズムの定着化・観光物産協会による自走化を目指し、本市特有の地域資源の掘り起こしや体験型旅行商品の開発のためのモニターツアー等を実施。ツアーの内容をより充実させ、定着化・自走化を推進していくためには、様々な観点からの意見や声を吸い上げ、改善を重ねていく必要がある。
- 一方、市の職員互助会においては、職員の福利厚生事業として、職員同士の交流や健康増進のためのイベントを毎年開催（平成30年度は「ウォーキング・レクリエーション」を開催、子どもを含む77名が参加。）。健康経営や働き方改革の重要性が増す中、健幸宣言を行っている草津市役所としても、職員の健幸づくりに一層取り組むことが重要。
- これら両者の課題を踏まえ、ヘルスツーリズムのモニターツアーの一部を、職員互助会の福利厚生事業として実施する。多くの職員に参加してもらい、アンケート等により各々の業務経験や立場を活かしたツアー内容の改善策を提案してもらうことで、草津版ヘルスツーリズムの内容の改善・充実につなげていく。また、職員としても互助会の予算により少ない自己負担でツアーに参加することができ、気軽に職員交流・健康増進に臨むことができる。さらに、市職員の健幸づくりへの意識の向上や、各業務への健幸の視点の導入が期待される。
- なお、ヘルスツーリズムの内容の充実策として、草津ブランドを扱う農家等の事業者と観光物産協会とのマッチングを図り、草津ブランドの展開を広げていくことが望ましい。



↑ 昨年度のヘルスツーリズム
モニターツアーの様子

【参考】健幸都市づくり推進チームの活動紹介



推進チーム員の活動(平成30年度～)

提案内容の検討以外にも、推進チーム員の健幸への意識の醸成を図るため、様々な取組を実施。

○歩数対決

チーム員同士で健康推進アプリ「BIWA-TEKU」の歩数を集計し、楽しく競い合い、健康づくりを行った。

○昼食の写真の共有

自らの食事の栄養バランスを意識するため、チーム員同士で昼食の写真を共有した。



○たび丸体操の動画作成

たび丸体操のD
VD化を企画し、
動画を作成した。



○先進地の市職員との交流

蒲郡市の健康づくりのプロ
ジェクトチームと情報交換会
を開催した。
(H30.5.28、
R1.7.9)



○朝活プログラム

参加職員を広く募集し、職員同士
が交流しながら朝食を食べ、朝食
欠食改善率
や仕事の生
産性への効
果等を確認。



令和元年度推進チーム名簿 ◎リーダー、○サブリーダー

氏名	職区分	所属課
◎山田 晋作	事務	都市再生課
○清水 葉子	保健師	健康増進課
○三田村 純	土木技師	プール整備事業推進室
湯浅 圭太	事務	広報課
西村 礼加	事務	総務課
岡田 麻衣	事務	まちづくり協働課
河上 大樹	事務	商工観光労政課
梅原 亮平	事務	農林水産課
中西 稔	事務	長寿いきがい課
大隅 勝允	事務	子ども・若者政策課
清水 愛紀	土木技師	上下水道施設課
山本 和樹	事務	学校給食センター

継続検討事項

下記事項について、引き続き検討を行う。

○ヘルスケア産業の提案募集

市内のヘルスケア産業の掘り起こしにつながる事業を検討する。

○健康推進アプリ「BIWA-TEKU」のスタンプラリーコースを設定

「BIWA-TEKU」の更なる充実を目指し、チーム員でコースを検討する。

○市職員が参加できる楽しいイベントの企画

職員自身が健幸づくりを進め、健幸の視点を持てるよう、職員が参加できる楽しいイベントの実施を検討する。